

JICEで刊行している出版物等について



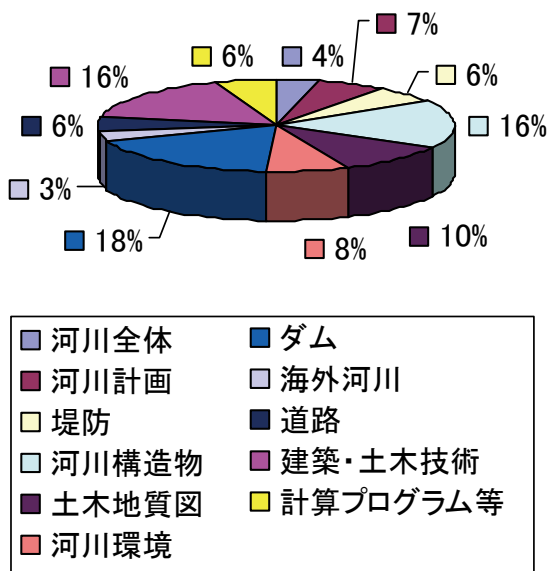
岡安徹也

調査第一部
首席研究員

出版物等提供の現状

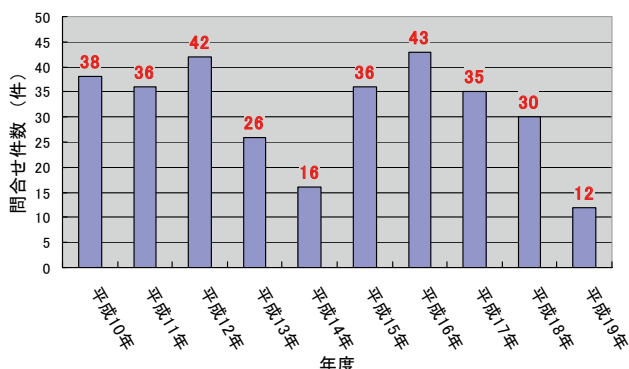
JICE では、自主研究や受託調査研究を通じて得られた技術的知見を手引き等の出版物や計算プログラムとして提供・情報発信し、建設技術の普及・促進に努めている。

2008 年 6 月現在で 106 件公表提供しており、その内訳は図－1 のとおりである。



図－1 出版物・プログラムの提供件数内訳

また、出版物の内容に関する質問を任意で受け付け、解釈や考え方を回答しており、出版物によっては、問合せ件数が多いものや重複する問合せも見られた。



図－2 「柔構造樋門設計の手引き」への問合せ件数

出版物等提供の新たな取り組み

近年では、利用者にとって安価に入手でき、情報発信者にとっても最新知見への機動的な改訂が可能となることを目的に、出版物による提供から、JICE HP における PDF による提供に順次切り替えているところである。

また、PDF 提供による Web 画面の改修と合せて、従前は任意に受け付けていた出版物の内容に関する質問等について、FAQ (Frequently Asked Questions) の欄を設けて、よくある質問への回答を掲載することとした。

これまで問合せの多かった「護岸の力学設計法」や「柔構造樋門樋管設計の手引き」を中心に、2008 年 2 月より試行を開始し、現在時点では 5 つの出版物に限られるが、順次、FAQ を拡充していく予定である。

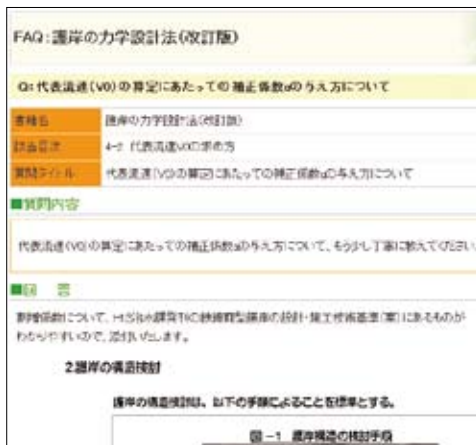
販売・配布／貸出し図書						
JICEで刊行している出版物および貸出し図書						
分類	図書名	発行年	定価	種別	問合せ先 入手先	正誤表
河川計画	河川計画設計の手引き	2000/2		PDF	ダウンロード	
	中小河川計画の手引き(第2版)	1999/9		PDF	ダウンロード	
	都市河川計画の手引き～洪水防除計画編～	1999/5		PDF	ダウンロード	
	都市河川計画の手引き～立体河川施設計画編～	1999/4		PDF	ダウンロード	
	施設・特定都市河川治水計画設計法に関するガイドライン	2005/2	¥3,545	販売	コンタクトセンター (03-5733-3157)	
	定地開発等に供する河川施設設計法(第2版)	1976/10		PDF	ダウンロード	
	内水施設計画設計の手引き	1985/2		貸出	JICE	
	河川堤防の構造設計の手引き	2002/7		PDF	ダウンロード	
	日独点検によるモニタリングに関する技術資料	2006/9		PDF	ダウンロード	
	中小河川における堤防点検・対策の手引き(第2版)	2004/11		CD	ダウンロード	
堤防	堤防決壊部緊急復旧工法マニュアル	1999/5		PDF	ダウンロード	
	損失低減型復旧工法マニュアル	2001/5		PDF	ダウンロード	
河川環境	河川環境改善マニュアル	1999/3		PDF	ダウンロード	

図－3 JICE HP における出版物の紹介・提供ページ

URL : <http://www.jice.or.jp/tosho/index.html>

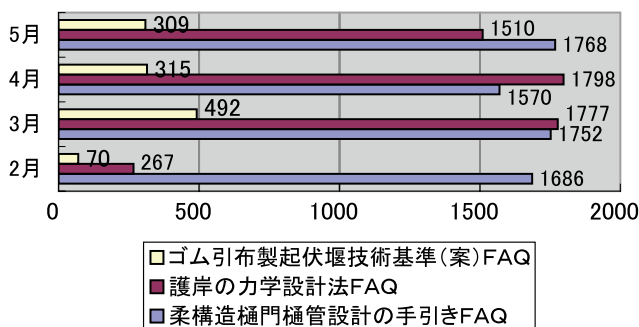


図－４ JICE HP における FAQ の提供ページその 1



図－５ JICE HP における FAQ の提供ページその 1

F A Qを開始した 2008 年 2 月から 4 月までの F A Qのアクセス件数を図－７に示す。



図－６ FAQ の利用状況

「護岸の力学設計法」や「柔構造樋門樋管設計の手引き」に関しては、毎月千件越えるアクセスがあり、参考にして頂いていることがわかる。

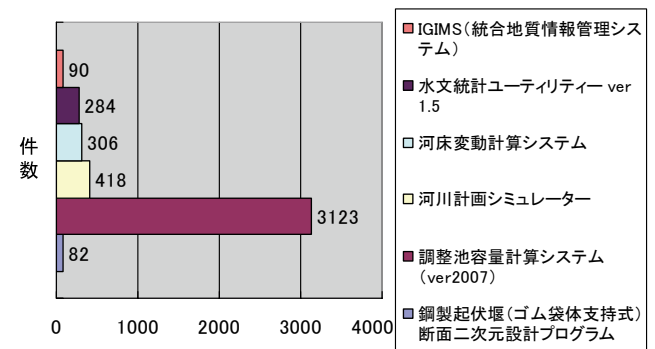
また、JICE では、出版物以外にも各種計算プログラムを Web 上で無料公開をしており、それらのアクセス状況

についても、図－８に示す。

特に、「解説・特定都市河川浸水被害対策法施行に関するガイドライン」の発刊と併せて作成した、雨水貯留浸透施設としての調整池の容量、浸透施設の規模の算定に関して、降雨、行為区域、土地利用等の諸要素を自在かつ容易に取り扱うことができる調整池容量計算システムへのアクセスが多く、検討に広く活用されていると思われる。



図－７ JICE HP における計算プログラムの提供ページ
URL : <http://www.jice.or.jp/sim/index.html>



図－８ JICE HP における計算プログラムへのアクセス件数
(2008 年 2 月～ 5 月)

今後の取り組みへの期待

F A Qの開設にともない、電話や F A Xによる問合せは減少し、個別に対応していた出版物の内容に関する補足説明が広く出版物の利用者に共有できるようになったと思われる。

また、JICE にとっても、基準や手引き等の現場への適用の課題や今後の技術開発のニーズを把握することに役立つものとして期待しているところである。

今後は、F A Qの対象を拡大していくとともに、F A Qを更に進展させ、B B S) Bulletin Board System)等の電子掲示板機能も付加して、基準や手引き等の利用者へのサービスを向上させるとともに、ニーズの把握にも活用することを推進していきたいと考えている。